

募金百貨店プロジェクト

障害者生産のイチゴなどで商品

収益7万円余寄付

員合 職組 村組 町組 市組 県共



「募金百貨店プロジェクト」の寄付金を県共同募金会の大窪正行会長に渡す防長苑の細田法孝支配人(左) 11月29日、山口市

県内総合

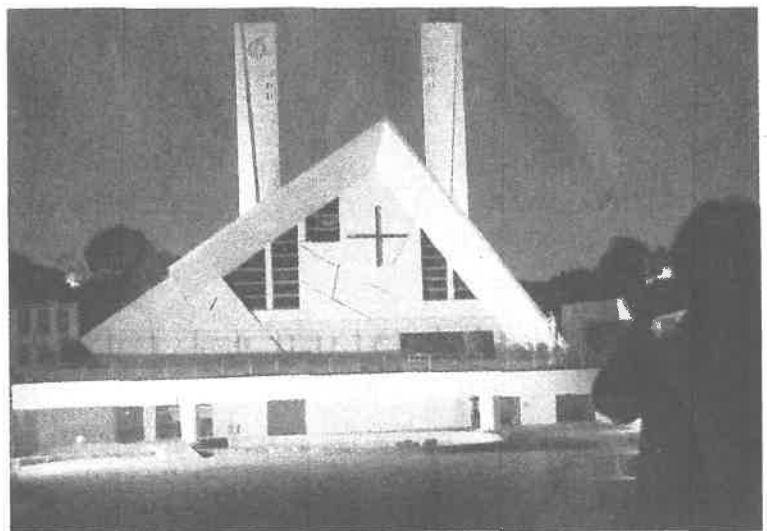
県市町村職員共済組合(山田健一理事長)は29日、山口市熊野町の保養所・防長苑で取り組む社会貢献活動の収益金7万6600円を県共同募金会(大窪正行会長)に寄付した。

同組合は2016年、商品や企画などの売り上げの一部を寄付に充てる県共同募金会の「募金百貨店プロジェクト」に参加。防長苑が、同市仁保中郷の障害者支援施設ひらきの里で生産したイチゴを使ったドレッシング、サツマイモを使ったスイートポテトを商品開発し、同市障害者施設共同受発注センターが作ったラベルを貼り販売している。それぞれ一つ売れるごとにドレッシング(756円)は10円、スイートポテト(1500円)は100円を赤い羽根共同募金に寄付する。

同市大手町の県共同募金

会で贈呈式があり、防長苑の細田法孝支配人が大窪会長に寄付金を手渡した。寄付は2回目で累計金額は13万8930円になり、細田支配人は「障害のある方の就労意欲が高まり、地域の福祉課題の解決につながることを願う。今後も人とのつながりを大切に事業を進めていく」と述べた。大窪会長は「地域福祉へのニーズが多様化する中で実には有意義な取り組み。継続して地域福祉の向上に協力してほしい」と感謝を述べた。

青に染まるサビエル聖堂 山口



世界自閉症啓発デーでライトアップ

国連の「世界自閉症啓発デー」などに合わせ山口市で1日、発達障害の理解促進を目的とした啓発イベントが始まり、同市亀山町のサビエル記念聖堂がシンボルカラーの青色にライトアップされた。2日までも。

青色にライトアップされたサビエル記念聖堂の2本の塔は1日午後7時15分ごろ、山口市亀山町

サビエル記念聖堂が「癒やし」や「希望」を意味する青色に染まり、訪れた人たちが幻想的な光の演出に見入っていた。

県アスベの会やマザーズスマイル山口などでつくる「LIGHT IT UP BLUE in山口」実行委員会が青色のライトアップを企画。藤岡亜希子副委員長(48)は「青い光を通じて自閉症や発達障害を知ってもらい、互いに理解し合える街づくりをしたい」と話した。

同市道場前前のどうもん広場でオープニングイベントがあり、市民ら約200人が参加。出演者が青色の衣装を身に着けてトーンチャイム演奏、ゴスペル歌唱などを披露。午後7時には

新山口駅南北自由通路のブルーライトアップ(同)、市内各地で発達障害の啓発展示なども開いている。問い合わせは、さぼらんて(電話0833・901・1166)へ。